

(別紙)

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名	長崎県立長崎東中学校	
生 徒 数	120名	
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	正答率は81.0%と全国・県の正答率を大きく上回っている。「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均を上回っているものの他の領域と比較すると平均との差が小さく、本校の課題であると考えられる。短歌に関する設問の正答率も、全国平均に比較して低い。また、「国語の勉強は好きですか」という質問に対して、「当てはまる」の回答が全国平均を下回っている状況がある。改善策として、特に古典の関心を高められるよう、音読を通して古典独特のリズムに親しむ機会をつくったり、言葉の歴史的変遷や方言と日常使用する言葉との比較を行ったりして、国語への関心を高めていく。
数学	概 況 改善策	正答率は82.0%と全国・県の正答率を大きく上回っている。「データの活用」において、他の領域と比較すると低い傾向が見られた。確率を考える際に、本質を捉えることができていることが要因だと思われる。答案を論理的に表現する力は少しずつ身につくようである。日々の授業において、答えを導く過程、自分の考えを論理的に表現する力が養われるように授業を展開していく。
質 問 調 査 の 状 況	いじめはいけないことだと思っていない生徒の割合が昨年比+8.4%、全国比+7.4%と増加している。いじめは人権侵害であるということを根気強く伝え続ける必要がある。 平日のスマートフォンでの SNS・動画視聴が2時間以上の生徒は、全国の約半分であるが、一昨年比+12.6%と倍増している。就寝時間はある程度決まっている生徒が多数であるが、睡眠時間の不足につながっている可能性がある。	

(別紙)

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立佐世保北中学校	
生徒数	113名	
各教科の状況		
国語	概況 改善策	平均正答率は79%（県平均56%）であった。「知識・技能」の正答率は82.2%（県平均60.7%）、「思考力・判断力・表現力」の正答率は77.4%（県平均53.2%）であった。正答率が低い問題は、意見と根拠などの情報と情報との関係について理解する問題や、文章と図とを結びつけその関係を踏まえ内容を解釈する問題であった。今後は意見と根拠の整合性を考えたり、的確に図表を読み取り読解に活かしたりする力を育成する必要がある。
数学	概況 改善策	平均正答率は80%（県平均49%）であった。知識・技能を問う問題の正答率は86.9%（県平均59.8%）、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は66.4%（県平均26.3%）であった。正答率が低い問題は「データを読み取り、判断の理由を説明する」問題および「角の大きさに着目して新たな性質を見出すことで、説明として正しいものを選ぶ」問題であった。授業や問題演習において、自身の言葉で説明を書くことのできる力を育成していく必要がある。
質問調査の状況	「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「思う、どちらかと言えば思う」と答えた生徒の割合は92.1%（県平均84.8%）であった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、「2時間以上」と答えた生徒の割合は73.4%（県平均32.0%）であり、ともに県平均を上回っていた。	

(別紙)

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名	長崎県立諫早高等学校附属中学校	
生 徒 数	117名	
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	平均正答率は82.7%と全国・県平均を大きく上回り、15問中12問以上の正答者も70.1%と度数分布も良好である。正答率70%以下の問題は3問あり、「文章と図」・「情報と情報」との関連を問うものと条件作文であった。今後は複数の情報を関係づける力と古典の基礎学力強化を進めていく。
数学	概 況 改善策	平均正答率は82.5%と全国や県の平均正答率を大きく上回った。関数分野については、正答率が高くなった。一方、データの活用は、正答率が74.8%と80%を下回った。特に、複数集団のデータにおける分布の傾向を読み取り、比較することができていなかった。今後は、思考力・判断力・表現力の強化を図っていく。
質問調査の状況	自ら学びを深めていこうという意欲は全国・県平均よりも高い【質問番号(20)・(30)】。ただし、平日の平均学習時間が少ない【質問番号(21)】。休日にまとめて学習に取り組む姿勢は見取れるが、時間を十分に確保できているとは言い難い【質問番号(22)】。 ICT 機器の活用のメリットは理解しているが【質問番号(28)】、授業内で生徒の活動として取り入れることが十分ではない【質問番号(27)】ところが課題である。 教科では、英語科で理解・表現を意識した活動が多く行われていると考えている生徒の割合が高い【質問番号(61~64)】。他方、国語の大切さを実感できていない割合が高いため【質問番号(43)・(45)】、教科担当者を中心として改善を図っていきたい。	